

# 10・26反原子力デーに 関西電力へ申し入れ

10月26日、8団体31人が集まって「10・26反原子力デーに際しての関西電力への申し入れ」を関西電力本店に対して行いました。

関電は若狭ネットから事前の連絡があったにもかかわらず、「約束していない。」と対応を拒否してきました。

そして、現に申し入れ書を持参してきている私たちに「郵送するように」と言うので。本店は関電ビルの2階にありますから、ちょっと1階まで降りてくれば済む話です。

この行動は政府が定めた「原子力の日」に反対する「反原子力デー」として毎年取り組まれていきます。関電側の態度は、当初会議室での対応だったものが、だんだん悪くなり、去年は1階ロビーで5分という時間制限を付けてきました。そしてついに対応拒否です！

しばらく広報担当が出てくるよう求めましたが、出てきませんので、警備責任者に若狭ネットが自身の申し入れ文を読み上げ、私たちの申し入れ文もとも警備責任者に託して終了しました。私たちの申し入れ文は次ページに掲載。



2016年11月4日

## STOP原子力★関電包囲行動

ブログ：<http://stop-kanden.seesaa.net/>

連絡先：東大阪市源氏が丘16-10 源氏が丘教会気付

\*\*\*\*\*

2016年10月26日

関西電力 取締役社長 岩根茂樹 様

2016年 反原子力に際しての関西電力への申し入れ

### STOP原子力★関電包囲行動

7月の鹿児島県知事選において、「熊本地震の影響を考慮し、川内原発を停止して、施設の点検と避難計画の見直しを行う」を公約に掲げた三反園氏が、8万票以上の大差で現職を破り、新知事になりました。保守王国と言われる鹿児島県で、現職候補が敗れたのは歴史上初めてです。

10月の新潟県知事選でも「再稼働の議論の前に、福島原発事故の検証をしっかりおこなう」を公約に掲げた新人候補・米山隆一氏が自公推薦候補に6万票の差をつけて大勝しました。

これまで、原発に関するアンケートを取ると反対が過半数となっても、その地域で選挙がおこなわれると、必ずしも原発反対派が勝てるわけではありませんでした。しかし、上記2つの県知事選が示したことは、原発反対が争点になれば、原発反対の民意は選挙結果に結びつくという事実です。

原発は一度事故を起こせば、とりかえしのつかないことになるのは「3・11」が証明しました。福島第一原発の1、2、3号機では未だに炉心に近づくことができず、メルトダウンした核燃料がどういう状態になっているのかつかめていません。核燃料を冷却するために投入している冷却水も閉じられた体系ではないため、日々、大量の放射能汚染水が増え続けています。

避難した方々も、避難できず地元に残った方々も、生活を壊され、人間関係にも傷がつき、故郷を失い、未来も失うという悲惨な事態を押しつけられています。

東京電力は、上記事態に何ら責任ある対応を取っていません。取れていません。あなた方、関西電力も人ごとではありません。一歩まちがえば、同じことが関西電力の若狭原発群でもおこるのです。

さらに、原発は事故が起こらなくても日々、被曝労働によって成立している発電です。被ばく労働による健康被害、死亡などを前提としてしか成り立たない原発は、人倫にもとる産業です。

私達は、関西電力が核発電を一切やめて、核発電以外の方法にきりかえることを強く申し入れます。

本日、私たちは貴社に対し、以下のことを要請します。

第1、大津地裁決定（高浜原発3・4号機の運転差し止め仮処分）に対する保全抗告を取り下げ、地裁決定に従うこと。

第2、とりわけ危険な老朽原発である高浜1・2号機、大飯1・2号機、美浜3号機の運転期間延長をしないこと。

第3、これまでの被ばく労働の実態（労働条件、被ばく状況など）を公にし、現場労働者の健康被害について補償をおこなうこと。

第4、関電本店周辺に張り巡らされた監視カメラで、市民を無断撮影し、データを蓄積しているが、人権侵害・憲法違反である。撮影とデータ蓄積をただちに中止すること。このかん蓄積した撮影データは破棄し、今後、データを大阪府警に提供することをやめること。

第5、美浜1・2・3号機、大飯1・2・3・4号機、高浜1・2・3・4号機を永久に停止し、ただちに廃炉計画を作成・実施すること。

以上。



# 新潟県知事選 反原発の米山隆一さん勝利

■反原発を訴え、6万票の差をつけて米山隆一さんが圧勝

10月16日、新潟知事選で告示日6日前に出馬を表明した米山隆一さんが53万票を獲得して知事に選ばれました。対して自民・公明が推薦した前長岡市長・森民夫さんの得票は約47万票。東京電力柏崎刈羽原発について、「県民の命や暮らしが守れない現状では再稼働は認められない」とは当選後の米山さんの弁です。

新潟県民は2007年の中越沖地震で原発危機を経験しています。東京電力柏崎刈羽原発は地震の影響で火災が発生し、微量の放射線漏れがあったそうです。その4年後に福島第一原発の事故が起き、福島から新潟に避難された方もたくさん住んでいらっしゃいます。そういう中でやはり原発はいらぬという選択がなされました。

鹿児島でも川内原発再稼働を争点に選挙がたたかわれ、「川内原発を停止し、点検するよう九電に申し入れる」と訴えた三反園さんが当選しました。やはりあの熊本地震のさなか、稼働中の川内原発を停止しなかった九州電力に不安を覚えた人が多かったということでしょう。

その後、三反園知事は2度九電に停止を申し入れましたが、九電は拒否。当選後「安全性が確保されない原発を動かすわけにはいかない」と言っていた三反園知事が「知事に原発を止める権限はない」と再稼働容認の方向かという残念なニュースが流れてきました。知事に権限がないのはその通りですが、これまでの慣習から地元の同意なく再稼働は難しいはず。三反園知事の動向が伝えられるとおりなのかどうかはともかく、鹿児島県民の意思は変わっていないと思います。

放射能だらけの日本を子供たちに残すな！という思いで原発廃炉までの道のりをともに歩いていきましょう。ファイト！